

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|-------------------|----|------------|
| ○事業所名 | 放課後等デイサービスかがやきクラブ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 令和6年12月9日 | ～ | 令和6年12月23日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 30 | (回答者数) 29 |
| ○従業者評価実施期間 | 令和6年12月9日 | ～ | 令和6年12月23日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | | (回答者数) |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年1月30日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 1日の利用定員が20名の施設であり、集団での生活・活動が基本となる。そのため日々の活動の中では子ども同士の関わりが多く、活動を通じて日常的に社会性を育むことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの特性や長所を活かしながらグループごとに活動を設定し、プログラムに沿って小集団活動に取り組んでいる。 ・小集団活動を通してルールの遵守、協調性、SST、コミュニケーション能力、自己表現力を身に付けられるよう支援を行っている。 | 子どもたちが日々活動に取り組むことで、自然と生活をする上で必要になる(5領域「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を踏まえた)力を獲得していけるよう、活動プログラムの見直しを適宜行い、小集団・集団活動のさらなる充実化を図っていく。 |
| 2 | デハ1にこにこ児童クラブやさがた保育園と隣接しており、日常的に地域の子どもたちとの交流の機会が生まれている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な交流だけではなく法人施設全体での行事やイベントに参加しており、様々な交流の機会を創出している。 ・法人内には乳幼児から中学生まで幅広い年齢の子どもたちが在籍しているので、交流を通して自然と相手を慮る心が醸成されている。 | 日常的な交流の機会をさらに増やしていけるよう、法人内で連携を図り、相互に交流が深まる活動の立案を行うことで、より一層交流活動を充実させていく。 |
| 3 | 臨床心理士や公認心理士の資格を有する心理担当職員を配置し、より個別的な支援が実施しやすい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・支援実施毎に作成する心理支援記録に「指導員への伝達事項」という項目を設け、心理面から対象のこどもの状態や関わり方のポイントなどを伝達するようにしている。 ・遊戯療法や箱庭療法を1対1で実施し、こどもの内面にアプローチし、自己成長力を高め、心理的課題の解決等に向かうための支援を実施している。 ・描画を用いた心理療法及びアセスメントを実施し、内面の言語化の難しいこどもの気持ちやニーズを汲み取り、内面の成長具合の確認、現時点での心理的課題や強みの発見を行っている。 ・グループでのSSTを実施し、こどもの強みを伸ばしながら、人間関係や社会の中で生きていく力をつけ、こどもの望む生活の実現に向けた支援を実施している。また、グループでの心理療法的アプローチも行っている。 ・保護者面談も実施し、家族やこどもの悩みやこども理解についての相談援助を行っている。 | 保護者の研修や面談をさらに充実させ、こども本人への支援だけでなく、家族も含めた支援を強化していく。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 保護者会活動の周知や理解が十分でなかったため、今後多くの保護者が参加できるよう、再度全体へ周知するとともに、活動内容の充実を図っていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者やきょうだいが研修会や行事に参加できる機会が少なかった。 ・かがやきクラブの行事やイベントが平日であったため、保護者やきょうだいの参加が難しい状況があった。 | 就業環境を踏まえながら、保護者会研修や行事活動など、様々な企画を通じて保護者やきょうだいにも参加できる仕組みづくりを図っていく。 |
| 2 | 集団での生活を基本とする中でも、より個々の特性に応じた支援の提供が行えるよう、支援体制の充実を図っていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・かがやきクラブでは、集団での生活・活動が基本となっているため、集団の中での個々の困り感や課題の見えづらさがある。 ・保護者との情報共有が十分でなく、こども一人ひとりが抱える課題を十分に把握できていなかった。 | 臨床心理士や公認心理士の専門的支援により個々の状況や課題を抽出し、全体の中でも個々の特性に応じた支援が行えるよう連携を図っていく。 また、保護者との面談の機会を設定し、都度相談できる体制を整えることで保護者との共通理解を図っていく。 |